

Economic Indicators

発表日: 2021年1月29日(金)

鉱工業生産指数(2020年12月)

～10-12月期は2四半期連続の高い伸びに。今後も持ち直し基調は続くもペースは鈍化する見通し～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

	鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財		
	生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
19	1月	▲2.3	0.2	▲1.8	▲0.5	▲0.3	1.4	▲1.7	0.4	▲7.2	▲8.5	2.3	3.6
	2月	1.0	▲0.7	1.2	0.0	0.1	1.3	0.1	1.7	4.3	▲3.5	0.4	1.8
	3月	▲0.5	▲4.1	▲1.1	▲3.9	0.7	0.2	1.1	3.5	▲0.9	▲7.8	▲1.6	▲2.1
	4月	▲0.1	▲0.7	0.7	▲1.1	0.0	1.2	▲1.0	1.9	0.0	▲9.1	2.3	2.9
	5月	1.5	▲1.9	0.8	▲1.6	0.4	1.5	1.3	4.5	2.7	▲3.8	▲1.0	0.1
	6月	▲2.6	▲3.9	▲3.2	▲4.9	0.6	3.0	2.2	6.6	▲2.9	▲5.6	▲2.2	▲2.6
	7月	0.7	0.8	2.5	2.1	▲0.1	2.4	▲0.8	0.8	▲0.2	▲3.1	1.5	3.2
	8月	▲1.7	▲5.5	▲2.0	▲5.0	▲0.1	2.4	2.0	8.7	0.0	▲7.7	▲1.1	▲3.0
	9月	1.9	1.2	1.8	2.1	▲0.9	0.9	▲1.7	1.9	8.1	7.5	1.5	2.7
	10月	▲4.0	▲8.2	▲3.5	▲7.6	0.8	2.5	4.0	9.5	▲10.4	▲13.5	▲5.0	▲5.2
	11月	▲0.6	▲8.5	▲1.4	▲8.0	▲0.5	1.5	1.7	12.3	▲6.5	▲15.9	1.0	▲5.0
	12月	0.2	▲3.7	0.2	▲3.8	0.4	1.2	0.5	6.2	9.2	0.6	▲2.4	▲3.7
20	1月	1.9	▲2.4	0.9	▲3.3	2.1	3.6	▲0.3	9.3	▲1.5	0.3	2.7	▲4.1
	2月	▲0.3	▲5.7	1.0	▲5.4	▲1.7	1.6	▲2.3	9.4	1.0	▲5.7	0.3	▲5.9
	3月	▲3.7	▲5.2	▲5.8	▲6.5	1.9	2.9	8.4	12.6	▲9.1	▲9.3	▲4.6	▲5.8
	4月	▲9.8	▲15.0	▲9.5	▲16.6	▲0.3	2.7	13.6	29.2	1.4	▲7.8	▲11.8	▲19.4
	5月	▲8.9	▲26.3	▲8.9	▲26.8	▲2.6	▲0.5	7.3	40.7	▲9.0	▲21.2	▲3.6	▲23.7
	6月	1.9	▲18.2	4.8	▲16.6	▲2.4	▲3.4	▲7.1	22.5	6.7	▲9.1	4.4	▲14.5
	7月	8.7	▲15.5	6.6	▲16.6	▲1.5	▲4.8	▲8.9	17.6	▲1.0	▲14.4	10.1	▲10.4
	8月	1.0	▲13.8	1.5	▲14.2	▲1.3	▲5.9	▲2.0	13.0	▲8.3	▲21.4	0.0	▲10.1
	9月	3.9	▲9.0	3.9	▲9.8	▲0.5	▲5.7	▲4.4	6.7	2.7	▲22.8	5.3	▲4.0
	10月	4.0	▲3.0	4.9	▲3.0	▲1.8	▲8.1	▲3.3	▲0.9	13.4	▲1.8	2.1	1.6
	11月	▲0.5	▲3.9	▲1.2	▲4.0	▲1.5	▲9.0	▲2.2	▲1.7	3.1	4.0	▲4.3	▲4.4
	12月	▲1.6	▲3.2	▲1.6	▲3.4	1.1	▲8.4	2.0	▲3.1	▲6.7	▲7.9	▲2.5	▲2.4
21	1月	8.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2月	▲0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 21年1月、2月は、製造工業生産予測調査の数値

○10-12月期は2四半期連続の高い伸びも、足下で持ち直しは一服

経済産業省より発表された20年12月の鉱工業生産指数は前月比▲1.6%と2か月連続で低下し、ほぼ市場予測値(コンセンサス: 同▲1.5%、レンジ: 同▲2.6%～同+1.0%)通りの結果となった。

内訳をみると、電子部品・デバイス工業(同+0.7%)が2か月連続で増加した一方、汎用・業務用機械工業(同▲11.7%)などが減少に転じたほか、乗用車の挽回生産の一服などにより輸送機械工業(同▲2.5%)の減少が続いた。汎用・業務用機械の大幅な減少には、11月にボイラ・原動機が大きく増加した反動減が大きく影響している(11月: 同74.9%→12月: 同▲41.4%)。そのほか、生産用機械工業(同▲0.7%)は小幅に減少したものの、生産用機械に含まれる半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置は高い水準を維持した。

また、四半期でみると、20年10-12月期は前期比+6.2%と、2四半期連続の高い伸びとなった。7-9月期に引き続き輸送機械工業(同+11.3%)が高い伸びとなったほか、世界経済の持ち直しを背景に、7-9月期は減少となっていた汎用・業務用機械工業(同+12.3%)や生産用機械工業(同+11.5%)などが大幅な伸びをみせた。もともと、生産の水準はコロナ前の水準を取り戻せておらず、足下ではけん引役となっていた輸送用機械工業の持ち直しに一服がみられている。

○21年1月は大幅な増産予想に。今後も持ち直し基調は続く見通しもペースは鈍化

同時に公表された製造工業生産予測指数では、21年1月が前月比+8.9%、2月が同▲0.3%となった。また、予測指数の上方バイアスを考慮した経済産業省の1月の補正試算値は同+4.4%となった。1月の予測指数は前回調査時点（同+7.1%）よりも上方修正されるなど、大幅な回復が予想されており、この予測値が達成されればコロナ前の20年1月の水準を上回るものとなる。内訳をみると、電子部品・デバイス工業（同+20.8%）や生産用機械工業（同+14.4%）、汎用・業務用機械工業（同+18.2%）の大幅な伸びが見込まれているほか、減少の続いている輸送機械工業（同+3.8%）が増加に転じる予想となっている。

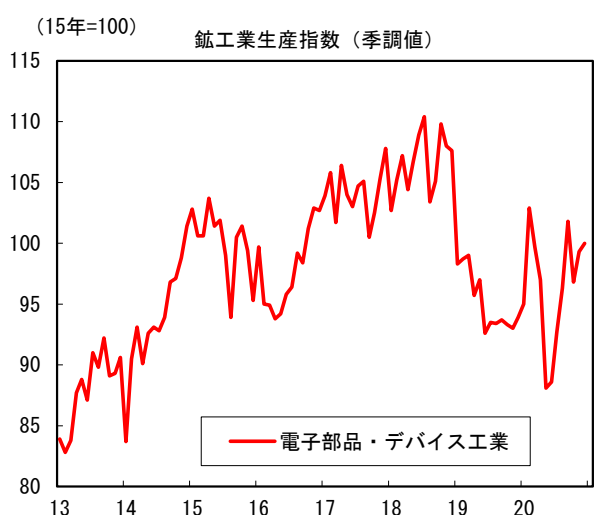
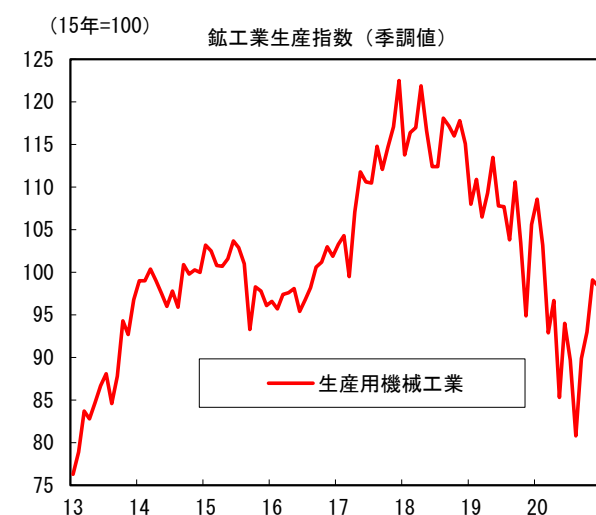
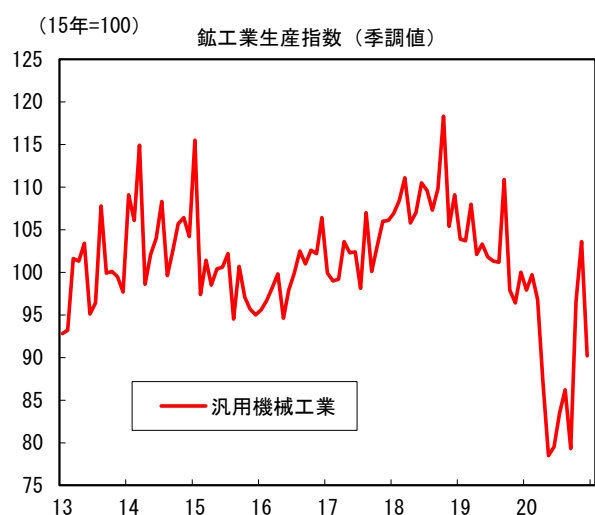
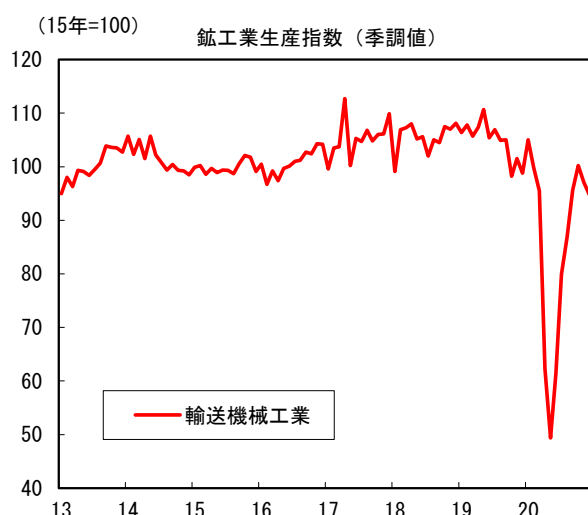
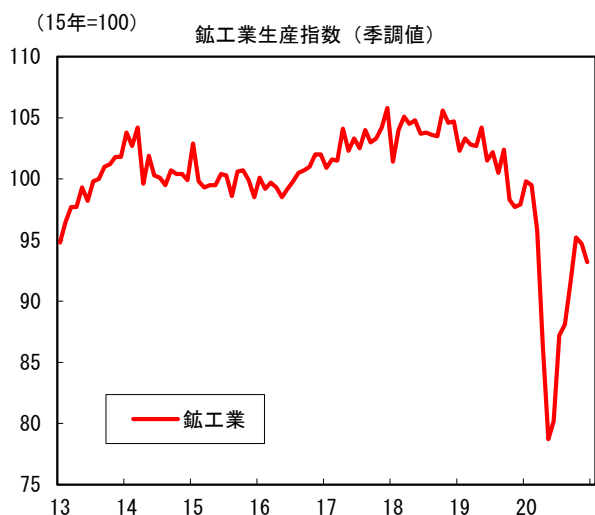
一方、2月は同▲0.3%と小幅な減少となった。汎用・業務用機械工業（同▲9.2%）などの減少が見込まれる一方、電子部品・デバイス工業（同▲0.3%）は小幅な減少にとどまるほか、生産用機械工業（同+3.8%）などの増加が見込まれている。

なお、今回の調査は1月当初の計画に基づいているため、11都府県に対する緊急事態宣言発出の影響が十分に織り込まれていないことには注意が必要である。緊急事態宣言による景気の下振れは避けられない情勢で、生産計画よりも下振れる可能性がある。また、車載用の半導体の供給不足により、自動車メーカー各社による減産が行われていることも悪材料となる。供給不足解消には時間がかかる見通しで、今後の自動車生産の頭を押さえるだろう。今後も生産の持ち直し基調は続くと思われるも、持ち直しのペースは10-12月期から鈍化するとみられる。

○財別の動向

財別では、個人消費関連の20年12月の消費財出荷は前月比▲2.5%と減少が続いた。乗用車を中心に耐久消費財出荷が同▲5.9%と大幅な減少が続いたことが影響している。また、10-12月期は前期比+1.7%と7-9月期（同+13.8%）から伸びが鈍化した。足下では11都府県への緊急事態宣言の発出を受け景気の落ち込みが予想されることや消費者のマインドの悪化など、21年1-3月期は減少に転じる可能性があるだろう。

設備投資関連の12月の資本財出荷（除く輸送用機械）は前月比▲6.7%と減少に転じた。もっとも、四半期でみると10-12月期は前期比+11.8%と大幅な増加に転じており、国内外の設備投資需要の回復から明確に持ち直している。新型コロナウイルスの感染動向など先行き不透明感は強いものの、国内企業の設備投資は持ち直しているとみられる。



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。